

なかむらとくべつしえんがっこうだより

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう こうりゆう じんけん ぶ へいせい ねん がっ
横浜市立中村特別支援学校 交流・人権部 平成30年10月

『あたりまえの世の中に』

なかむらしょうがっこう こうちよう かね こ ふみのり
中村小学校 校長 金子 郁規

「〇〇ちゃんおはよう。」と、中村小の6年生の女の子が車いすの中村特別支援学校の子に明るい声をかけていました。私が中村に赴任した4月、中村小学校の職員室前での出来事です。声をかけられた女の子は、「またね。」と言って笑顔で歩いていきました。その時、私は正直驚きました。「この子たちはどうやって関係構築しているのだろう。」と思いました。しかし、中村小学校での勤務が続いているうちに、それは、ごく自然のことだとわかってきました。休み時間には、中村小学校の子が扉一枚隔てた中村特別支援学校の教室に遊びに行っています。中村特別支援学校の子どもたちや職員の方もそれを温かく迎えてくれています。迎えてくれた子どもたちの身体表現は様々ですが、喜んでくれているのは私にもわかりました。

『中村オリンピック』では、両校の子どもたちの関わりや両校の職員のチームワークに感動しました。両校の子たちが一緒に踊る演技では、長年の関わりから積み上げられたスタイルに驚きました。中村特別支援学校の子どもたちの競技では、中村小の子どもたちの声援の中、一生懸命歩いたり、走ったり、身体表現をしている子どもたちの姿に心を打たれました。両校の職員の動きもきびきびして素晴らしかったです。

「中村オリンピックの進行が遅れると、閉会式に中村特別支援学校の子どもたちが参加できなくなるから、絶対遅れたくないのです。」と、本校の職員が中村オリンピック後に私に話してくれました。そのことばに、両校が共に過ごしてきた長い歴史から生まれた絆とつながりを感じました。

中村小が夏休み中に、中村特別支援学校の指導の様子について見学する機会がありました。中村特別支援学校の方々は、職員同士互いに声をかけて確認しながら活動していました。子どもたち一人ひとりへのケアや指導、支援の仕方が違いましたが、どの職員の方も、常に明るい雰囲気協力しながら活動している姿に素晴らしさを感じました。

私には娘がいますが、娘が高校生のとき、同じクラスの友だちが中村小の卒業生でした。今でもその友達と連絡を取り合っているようですが、その友達が、私が中村小学校の校長に赴任したことを知ると、「中村小は中村特別支援学校と一緒に、とても良い学校だよ。」と娘に伝えてきたそうです。娘の話では、その子は友達を区別せず、誰とでも仲良くでき、とても良く頑張る子だそうです。きっと、中村小で過ごした6年間の中での両校の関わりで学んだことが大きかったのだと、私は思います。

中村特別支援学校との関わりが、中村小学校の人権教育の三本柱



の一つです。中村特別支援学校との関わりも、子どもたちの人権意識の基盤となる「人への優しさ」「他者との違いを認め尊重する」精神を育てている一つだと私は思います。同じ敷地内にあり、様々な交流を日常的に行っている両校の関係は、全国的にも珍しいそうです。

中村小学校に赴任してまだ五か月ですが、両校のこのような関係やつながりが、「あたりまえの学校」となり、そして、「あたりまえの世の中」になれば、日本はもっと「優しい国」になれるのではと思います。共に学びあえる両校の絆をこれからも大切にしながら、その良さをこれからも世の中に発信していきたいと思っています。

『あおちゃんとの3年間』

永田中学校 馬場 佐和子

あおちゃんと初めて会ったときのことは、今でもはっきり覚えています。思った以上に細くて小さくて、「“交流”って何をしたらいいのだろう…」と漠然と不安に思ったのが正直な気持ちでした。お互いに、今よりもなんとなくこぢない関係だったと思います。この頃は、授業に関しても、「あおちゃん来るからどうしようかな…」と担任みんなで考えこんでしまっていました。

交流について、そんなふうにかんがえていたときのこと、小学校時代から交流を続けている生徒が、校内にあおちゃんを見かけるなり、声をかけて自然と車いすを押ししていました。その姿を見て、わたしは、はっとさせられました。そして、本当にうらやましく思いました。もっと自然に交流できるようになりたいな、むしろ変に意識せずに、一緒に楽しく授業ができたらいなと思うようになりました。

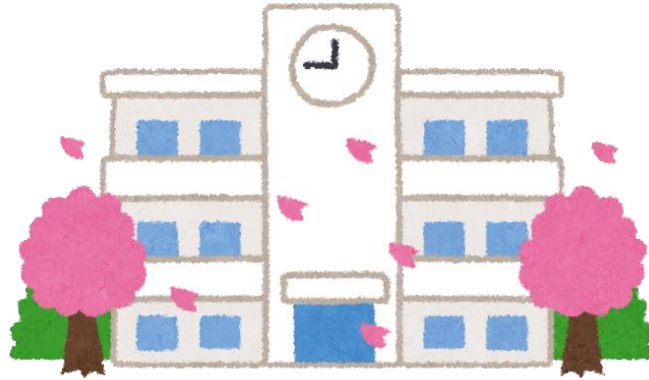
個別支援学級（6組）の授業は、ほかのクラスの授業と比べるとアクティブな活動が多いと思います。それが授業について考えこんでしまう原因のひとつだったのですが、それでも、一緒に活動できることがだんだんとわかってきました。折り紙で鶴を折ったり、ミシンでエプロンをつくったり…体育でキックベースの試合をしたときには、あおちゃんも打席に立って、ボールをキック！守備の乱れもあり、見事なヒットでチームに貢献していました。担当の先生によると、あおちゃんは日ごろから、中村の授業で歩く練習をしているとのこと。足を前に出すという動きの練習が、永田の体育の授業で生きた瞬間でもありました。本当にみんなで楽しく授業ができて、気がつくと、「“交流”って何をしたらいいのだろう…」なんて不安はまったくなくなっていました。



あおちゃんも、回数を重ねるごとに慣れてきて、中村で学習したことや行事について意欲的に発表をしてくれるようになりました。先日の交流では、修学旅行について、つくってきた新聞と合わせて発表をしました。発表を受けて6組の生徒も質問をしたり、感想を聞いたり、大いに盛り上がりました。あおちゃんが永田の授業を受けるのはもちろん、6組が中村の授業のことを聞くのも大切なことだと思っています。お互いのことをよく知ること、わかる

こと、そして、それらが積み重なって、お互いに認め合えること、これが、「交流」だと思っています。

中学校生活3年間は本当にあつという間で、あおちゃんたち3年生もあと半年で卒業の日を迎えます。交流は、中学校で最後だということも以前伺いました。これまで以上に授業の機会を大切にしながら、ひとつでも多くの楽しい思い出をつくっていきたいです。そして、最高の卒業式ができるように、担任みんなで応援をしていきたいと思います。



『私の交流』

中学部3年 山西 亜緒依
保護者 山西 文子
副学籍校 永田中学校

小学2年生から始めた交流ですが、中学でも続けていくことには迷いがありました。大きく変わった環境と、少し大人になる生徒さんたちと交流が取れるのか、不安でいっぱいでした。でも、娘にいろいろな経験をしてもらいたいと思い決断しました。

永田中学校に初めて行った日に、校長先生にお会いして温かく迎えていただき、今まで胸の中にあった不安な気持ちが、一気に期待へと大きく変わったことを覚えています。

小学校の交流時に友だちとすれ違うと、今まで変わらず大きな声で娘の名前を呼び、声をかけてくれる友だち、少しスクールになってチラッと見てくれる友だち、それぞれの対応に最初は殺しや戸惑いも少しありました。しかしいつからか、娘のことを必ず気にかけてくれている事がとても嬉しく感じられるようになりました。

交流先のクラスは、1年生から3年生までの一緒のクラスで学習をしました。いつも笑顔で迎えてくれ、すんなりとクラスに溶け込むことが出来ました。小学校では同級生だけの交流でしたが、中学校では先輩や後輩の皆さんともたくさん過ごす事が出来ました。

授業内容では、中村での学習とは違ったことにたくさんチャレンジできました。初めてのことに緊張してしまい戸惑っている時には、いつも先輩が優しく声をかけて励ましてくれました。やり方を教えてくれたり、ひとつの物を完成させるために役割分担をしてチームワークで完成させたりもしました。

どの授業も皆さんに支えてもらいながら、クラスの皆さんのかかわりを通して緊張もほぐれ、参加することが出来ました。そして、時には娘の新たな一面を発見することがありました。

中学2年生で文化祭に参加した時のことです。体育館で生徒さんのバンド演奏が行われていました。大きな音とわれんばかりの歓声が飛び交う様子に、私は内心「この雰囲気を受け入れることができるかなあ。」と思っていました。娘は、大きな音の中の環境はあまり得意ではなく、きっとこの音に耐えられないのではと心配していたのです。



でも、娘の様子を見て、正直びっくりしました。自分なりに受け入れて楽しんでいる姿だったからです。やはり同じ中学生、伝わるものがあるのだと感じました。

そして、その目を境に娘は歌うことの楽しさを知り、歌が大好きになったのです。

3年生のメインイベントである修学旅行。娘は、その修学旅行の思い出話を発表する場を与えてもらいました。校長先生をはじめ、担任の先生、クラスメイトの前で発表することが出来ました。恥ずかしい思いもあったのですが、きっと通いなれたクラスだからこそ出来たのではないかと思います。

自分の思いを中村の先生と伝え、たくさんの質問を受けました。ドキドキもせず、しっかり自分なりに答えられました。

振り返ると3年間でたくさんの経験をさせていただき、見ることのなかった世界を見せていただいたと思います。人と人とのつながりが欠かせない世の中で、同じ世代の生徒さんと共に時間を共有できたことは、娘にとって豊かで、何事にも変えることのできない貴重な時間だったと思います。そして、3年間の経験のひとつひとつが自信となり、成長に結びついたのでないかと思います。

過去には、交流の制度があってもこちらの望み通りには叶わず、何のための交流制度なのかと疑問に思ったこともありました。だからこそ、充実した交流を3年間過ごせた事はあたり前ではなく、たくさんの先生方の思いに支えられて叶った交流だと思います。機会を与えてくださった永田中学校の校長先生、副校長先生、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。いつも交流の日を迎えるまでには、何度も何度も交流の日程を見直し、調整していただいた両校の先生方の支えがあったからこそだと思っています。ありがとうございます…。

娘の交流もあと少しになりました。心の中でカウントダウンが始まりそうですが、一日一日交流の日を大切に、体調に気をつけて大好きな永田中学校に通えるように、親子共々頑張りたいと思います！